

JGN2plus 国際回線の運用について

1 目的

JGN2plus では、NICT をはじめとする関係研究機関間での国際的な共同研究を進めるため、共同研究の基盤となる国際テストベッドネットワークを我が国と諸外国との間で整備・運用し、次世代の情報通信基盤技術の研究開発、標準化、ネットワークを活用する応用技術の研究開発等の推進を図る。

2 JGN2plus 国際回線の主な仕様

米国回線

(ア)10Gbps(OC-192 SONET) 国際専用線

(イ)区間：東京 Los Angeles - Chicago

タイ回線

(ア)45Mbps(ATM) 国際専用線

(イ)区間：Tokyo Bangkok

シンガポール回線

(ア)155Mbps (OC-3 SONET) 国際専用線

(イ)区間：Tokyo - Singapore

中国回線

(ア)2.4Gbps(OC-48 SONET)国際専用線

(イ)区間：Tokyo Hongkong

(ウ)CSTNET, CERNET に対してそれぞれ 1Gbps での接続をしております。

韓国回線(APII)

(ア)10Gbps(OC-192 SONET)国際専用線

(イ)区間：Fukuoka Busan

韓国回線は APII(Asia Pacific Information Infrastructure)テストベッドプロジェクトとして、アジア太平洋地域における社会・経済の活性化に資する高度な情報通信基盤の形成を関係諸国が協働して促進することを目的とし、整備しております。

中国回線、韓国回線は、L3 での接続のみを提供しております。

3 利用について

広く海外の研究者にも JGN2plus の研究環境を提供することを基本的な方針とする。また、良好な研究環境を維持するとともに、研究開発の成果の管理を適切に行っていく必要がある。このような考えに基づき、JGN2plus 国際回線の運用について以下のように定める。

- JGN2plus 国際回線の利用は、日本国内の研究機関の参加が必要となります。
- JGN2plus の国際回線を経由し、国内研究機関と海外研究機関が共同研究プロジェクトを行う場合に、国内研究機関は「JGN2plus 利用の手引き」に従った手続きを、海外研究機関は「JGN2plus 利用の手引き」に従った手続き、又は、包括的共同研究契約に基づく覚書を必要とする（図1参照）。
- 利用の実態を踏まえ必要に応じ見直すものとする。

・ 図1：国内研究機関と海外研究機関が共同研究プロジェクトを行う場合

